団長 遠藤 正樹さん

選手をはじめ第14分団 員には8カ月間にも及ぶ長 期間の訓練に耐えていただ き心から感謝します。勝負 は時の運。入賞ならず残念 な結果でしたが、全国大会 の雰囲気を十分に感じ取っ たと思いますので、今後の 操法競技に生かしていただ きたいです。



盛岡中央消防署葛巻分署 分署長 **高橋 功一**さん

春からの訓練、大変ご苦 労さまでした。訓練の成果 が実を結び、見事全国大会 出場という目標を達成しま した。入賞に届かず残念で したが、今回の教訓を2年 後、4年後の全国大会に生 かし、葛巻町消防団の上位 入賞を目標に励んでいきた いと思います。



第14分団後援会 一明さん

それぞれ仕事や家庭を持 ちながら、長期間に及ぶ訓 練を一生懸命に頑張ってく れました。大変お疲れさま でした。全国の舞台に出場 できたことを誇りに思いま す。今回の体験を糧に、4 年後は全国で入賞できるよ うに頑張ってほしいと思い ます。



第14分団 分団長 大橋 年光さん

支部大会や県大会のよう に、いつもどおりの操法が できていればと悔やまれま す。しかし、訓練期間も含 めて貴重な経験ができまし たので、今後につなげてい きたいと思います。頑張っ てくれた選手、応援してく ださいました皆さん、本当 にありがとうございました。

=準優勝=

■平成18年 第6分団(小田)

■平成22年 第6分団(小田)

これまでに全国大会に出場した町内の分団

■昭和57年 第17分団(田野) =優良賞=

=優良賞= ■平成10年 第9分団 (元木、土谷川) ■平成14年 第6分団(小田)

■平成26年 第14分団 (小苗代~寺田) ※全国大会は2年に一度開催され、「ポンプ車の部」と 「小型ポンプの部」が交互の出場となります。









1目標としてきた全国の舞台で息の合った放水を披露。大勢の観 衆が間近で見守ります 2大会会場のメインゲート 3必勝を誓 う全国の消防団ののぼりが立ち並びました 4岩手県代表として 堂々と入場行進 5~9競技の様子。入賞に届かなかったものの 正確できびきびとした動作が観衆の目を引きました 10競技を無 事に終えて笑顔の選手たち。指揮者=千葉信一さん(42)、1番員 =木戸場克郁さん(34)、2番員=下屋敷茂さん(35)、3番員=太 田真一さん(38)、補助員=延足育男さん(42)



■小型ポンプの部結果 (出場24隊)

順位	都道府県	消防団名	タイム	総得点
1	岡山県	岡山市消防団	40.29	91.0
2	兵庫県	福崎町消防団	41.06	91.0
3	島根県	奥出雲町消防団	41.85	90.5
4	広島県	福山市消防団	41.93	90.0
5	愛知県	豊田市消防団	43.39	89.0
6	岐阜県	海津市消防団	42.73	86.5
7	山梨県	南アルプス市消防団	41.62	85.5
8	千葉県	八街市消防団	40.47	84.5
9	宮城県	石巻市消防団	41.90	84.5
10	滋賀県	甲賀市消防団	41.00	83.5
11	青森県	階上町消防団	41.83	83.5
12	鹿児島県	曽於市消防団	41.34	83.0
13	群馬県	昭和村消防団	42.24	82.5
14	東京都	板橋消防団	41.31	82.0
15	岩手県	葛巻町消防団	44.07	79.5
16	山口県	岩国市消防団	43.49	79.0
17	新潟県	長岡市消防団	44.69	78.5
18	大分県	竹田市消防団	42.53	77.5
19	京都府	精華町消防団	43.92	76.5
20	福島県	富岡町消防団	45.76	76.0
21	佐賀県	太良町消防団	46.76	76.0
22	奈良県	広陵町消防団	43.53	73.0
23	石川県	能登町消防団	45.56	73.0
24	愛媛県	四国中央市消防団	45.36	72.5

防災公園で行われ、 て小型ポンプの部に第14分団(小苗 しては5大会連続 の部、 |は今 大会出場となります。 初の全国大会。 今年度の支部大会、県大寺田)が出場しました。 、東京都有明の東京臨海広域で、日本消防協会主催)は11で、日本消防協会主催)は11での消防団員が日頃の訓練の成の消防団員が日頃の訓練の成 (計6回目) 葛巻町 ^ル県からポンプ 24 県大会を制 間)の全間が団と 代表とし 第 14 分

法を展開。

選手は大舞台でも臆す

る

ことなく競技に挑み、

全力を尽く

結果は入賞には届かなか

つ

関係者の思いをのせ、

い訓練、

のせ、堂々とした操支えた家族や地域、

競技を開始

進しました。

小型ポンプの部それぞれ

自分たちの操法をや

り切った達成感

た選手

たものの、

の成果を出し切り、

見守る中、 頭に第14分団の選手が堂々と入場行

した。開会式では応援団が、はるばる東京の会場に駆は、選手や応援団など総勢 [長を先

〔3〕 平成26年12月1日・広報くずまき 広報くずまき・平成26年12月1日 [2]

た

が披露